こんにちは！ 村立東海病院です

帯状疱疹とワクチンのお話

■帯状疱疹の原因は、水ぼうそう!?

帯状疱疹は、水痘・帯状疱疹ウイルスが原因で引き起こされる病気です。初めてこのウイルスに感染すると、水痘（水ぼうそう）になります。水ぼうそうは、水疱が体中にボツボツとでき、とてもかゆい思いをする病気ですが、大抵の人は子どものうちに感染します。

このウイルスは、水ぼうそうが完治した後も体の中に残り続けています。いつもは静かにしていますが、抵抗力が低下したときなどに、潜んでいた神経から出てきて帯状に発疹ができます。これが帯状疱疹です。治療薬はありますが、時に頑固な神経痛が残る場合やさまざまな合併症を引き起こすこともありますので、早期に発見し、治療することが大切です。

■水ぼうそうの子どもが減ると、帯状疱疹の大人が増える？

もともと帯状疱疹は、50歳以上になると罹患の危険性が増えることが知られていました。日本での発症数は、年間で1,000人当たり約５人ですが、70歳以上では1,000人当たり約10人と、２倍以上に増加します。

ところで、５年前に、子どもの定期予防接種に水痘ワクチンが加わりました。子どもたちが水ぼうそうにかかる危険が減ったのは、良いことです。しかし、大人はこれまで身の回りの水ぼうそうに罹患した子どもからウイルスをうつされることで刺激を受け、帯状疱疹に対する抵抗力を高く保っていました。水ぼうそうにかかる子どもが減ることで、大人が水痘ウイルスから刺激を受ける機会も減少するため、今後は帯状疱疹にかかる大人が増えていくことが危惧されています。

■50歳以上の方はワクチンが接種できます！

このような現状から検討を行った結果、“人為的にウイルスに触れる機会を作れば良いのではないか”という考えに至り、日本では３年前から、子どもの水痘ワクチンを50歳以上の方の帯状疱疹ワクチンとして利用できるようになりました。ただし、このワクチンは生ワクチン（毒性を弱めた生きた細菌・ウイルスを含むワクチン）であるため、免疫力が低下している方などには接種できない場合があり、注意が必要です。

間もなく新しい帯状疱疹ワクチンが発売される予定ですが、こちらは、もう少し広くさまざまな方に接種できるものとなる見込みです。

ワクチンを接種することで、帯状疱疹にかかるリスクを下げることができます。今はまだ任意のワクチンのため料金は自費になってしまっていますが、神経痛や合併症を防ぐためにも、接種を検討してみてはいかがでしょうか。

村立東海病院　小児科医　川井 伸

「帯状疱疹」ってこんな病気

①帯状疱疹の原因は、水痘・帯状疱疹ウイルスです。

②このウイルスに初めてかかると、水ぼうそうになります。

③水ぼうそうが治っても、ウイルスは体の神経の中に潜んでいます。

④ストレスや疲れ、加齢などで免疫力が低下すると、ウイルスが再び活性化して、帯状疱疹を発症します。

⑤帯状疱疹の予防には、ワクチン接種が効果的です。

【問い合わせ】村立東海病院（☎282-2188）、福祉総務課地域医療担当（☎287-0848）